



福島県相馬市・南相馬市の今とこれからを伝えるコミュニティペーパー

「そうま・かえる新聞」 2015年9月 第20号

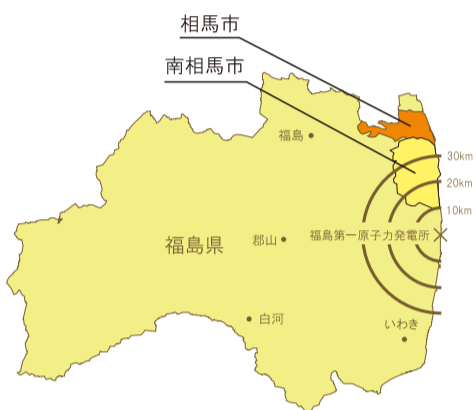
発行所：そうま・かえる新聞編集部

〒976-0042 福島県相馬市中村1丁目13-3 モリタミュージック内
問い合わせ・配達希望：somakaeru@yahoo.co.jp

子どもたちに明るい未来を手渡すため
わたしたちは生き方を「変える」。
いのちを何よりも大切に「考える」。
まちをゲンキに「変える」。



http://somakaeru.com



★そうまなぞなぞ 方言編 その12
「はらくちっつてなーんだ？」
例「おかわりしたら、はらくちっつてー」

「支援者」と「生活者」 意識のギャップ 生活という、うすのろを乗り越えて 一緒に考え、共に行動へ

東日本大震災と東京電力福島第1原発事故で被災した相馬市や南相馬市には、現在も全国からさまざまな形の支援が寄せられています。ただ、震災から4年半がたち、被災地に暮らす住民の状況も変化しています。そして、支援して下さる側の方との意識のギャップも見え隠れするようになりました。そうした現状とこれからの被災地と支援者の関係について、「被災地で生活する」という視点から考えてみました。
(タカノシンジ／南相馬市)

先日、「On The Road」という映画を見ました。これは、ジャック・ケルアックが1951年に書いた「路上」が原作で、2012年に映画化されたものです。「路上」は、世界中でたくさんのミュージシャンに影響を与えていて、自分も前から原作を読みたいと思っていたのですが、映画が先になってしまいました。やはり、そうは言っても原作をかなりデフォルメしているようなので、近々原作も読もうと思っています。

これを見終わって自分の中に一番最初に浮かんだのは、「生活という、うすのろ」という言葉でした。この言葉は、佐野元春の1980年発表の1stアルバム「BACK TO THE STREET」に収録された「情けない週末」の一節です。「生活という、うすのろがいなければ」「生活という、うすのろを乗り越えて」、歌の中では、そういう使い方で出てきます。この曲を中学生で初めて聞いた時、「生活という、うすのろ」の意味がわかりませんでした。そして、そんな疑問があったことも月日が経つうちに忘れていました。

「On The Road」では、1950年代のアメリカを舞台に20代の若者たちが、放浪を繰り返す中で、ジャズのビートに身をゆだねながら自由恋愛やドラッグなど快楽を求めていく様子が描かれています。その中には、



▲佐野元春さんの1stアルバム「BACK TO THE STREET」のジャケット

天才的なまでに自由を謳歌し、仲間からは尊敬の念も集めるほどの者もいました。人間は本来、このように自由に生きるべきなのかもしれません。しかし、結婚し、子どもができ、家庭を持つと、そんなことばかりはしてられないのが現実です。社会的責任も出てきます。かつてのように自分のペースで「生活」できない、自由でいたいのに自由にできない、でも不自由になってしまったのは誰のせい？自らがそういう道を選んだのでは？そんな家庭を持った若者のジレンマがこの映画には描かれています。きっと「生活という、うすのろ」がいなければ、もっと自由にいられるはずなのに…。

南相馬市では、今も市内の3分の1の区域が避難区域で、残り3分の2は居住区域となっています。当然のように原発事故の影響は残っていて、病院で定期的に内部被ばく検診を受けなくてはならないとか、地元産のシイタケなどは食べてはいけないとか、近所に設置されたモニタリング・ポストを見て毎日空間放射線量をチェックするとか、いたるところに除染で発生した土を入れた黒い袋が積み重なるとか、小学校の集団登校は再開されないとか、スタッフ不足のため医療・介護施設はフル稼働できないとか、スーパーなどのほか全国チェーンのファミリー・レストランも早い時間に閉まるとか、変化してしまった生活を挙げたらキリがありません。そういった中で、僕たちは「生活という、うすのろ」を続けています。当たり前のように仕事をし、両親の面倒を見ながら子どもの進学などの心配をし、隣近所とも良好な関係を保ち、時には友人たちと集まってバカ騒ぎし、原発事故で不自由な状況になっているとしても、それはそれで受け止め、毎日を過ごしています。あの日から4年以上が経過しました。僕たちは、必死に「生活という、うすのろ」を続けているうちに、その歳月と共に震災と原発事故で発生した「非日常」と、全国どこにでもありそうな「生活」すなわち「日常」



▲8月15日に南相馬市小高区で開かれた「復興夏祭り」。被災地では住民自らが、もとの生活を取り戻そうとしている

が意識の中で同化してしまいました。

このことで、困ったことが発生しています。これまで震災直後から現在まで、全国のNPOや企業、または個人でたくさんの方が南相馬市を支援してくれました。これは、とてもありがたいことで、特に震災直後は、食料や物資が流通しない時期が続いたため、「生きる」励みにもなりました。それからずっと、あまりにもたくさんの方から支援をいただいていたため、僕らも「生活という、うすのろ」の中で「支援慣れ」してしまった部分が出てきました。そんな状況から、最近では、「支援者」と僕たち「生活者」との意識のギャップが大きくなってきたのです。

「支援者」は、南相馬市の「非日常」の光景を見て、今も支援を続けてくれています。「非日常」の中で暮らす人たちは、今でも大変でしょう、そう感じて人によっては募金を集めたり、組織的な活動などを通じて南相馬市の子どもたちに旅のプレゼントを企画してくれたりしています。

その一方、その「非日常」と「支援」が「日常」になってしまった僕たちは、「支援者」個々のそういった熱い思いをダイレクトに受け止めきれなくなっているのです。例えば、「支援者」に対して心無い言葉を発したり、その純粋な心に付け込んで、さらなる要求をしたり…この両者の意識のギャップを原因とするすれ違いは、今様々ところで発生しています。

僕たちは、お互いに考え方を切り替えるときなのかもしれません。「支援する」、「支援される」段階から「一緒に考え、共に行動する」段階へ。生活という、うすのろを乗り越えて。

そうま
×
水戸

現在、「そうま・かえる新聞」や福島県相馬市・南相馬市支援プロジェクト「MY LIFE IS MY MESSAGE」には、全国に支えてくれる仲間が広がっています。このコーナーでは、そういった全国からの声を紹介していきます。

「音楽でつながる」

社会福祉法人職員 伊藤直喜(茨城県在住)

初めまして。茨城県水戸市で活動している、「地元でライ部」の副部長またの名を2号こと伊藤と申します。地元でライ部、名前からしてとても怪しい部ですが、まずは地元でライ部の紹介をさせていただきます。地元でライ部では、自分たちの住んでいる街で本物の音楽を聴くべく、大好きなミュージシャンを地元と呼び、ライブを開催するという活動をしています。地元でライ部の部員は、普段、音楽とは全く関係のない仕事をしている音楽好きな集団です。今年で7年目。活動の内容は「地元でライ部ブログ」とwebを検索し、ご覧になっていただければ幸いです。

地元でライ部と相馬のつながり。きっかけは、悲しいけれど2011年3月11日。あの日、未曾有の大地震が発生し、そして、原発事故にまでさかのぼります。当時、地元でライ部として、ミュージシャンのリクオさんのライブを震災から1カ月の4月10日に水戸のJazz Bar Bluemoods(ブルームーズ)で開く予定でした。水戸の前日は、相馬でライブが計画されていた記憶があります。

そうした状況の中、4月のライブはまだ余震や原発の問題など不安が残るため、安全面を考慮し、延期になりました。そして4カ月後、その年の8月にリクオさんの仕切り直しのライブを開催することができました。僕たち、地元でライ部としても被災地に何か出来ないかと考え、リクオさんのライブの際に、義援金を集めさせていただきました。いただいた義援金をもって当時、原発事故のために福島から茨城県美浦村に避難していた子どもたちへと、花火セットを贈りました。

実はこれが、相馬へとつながっていったのです。当時、避難所となっていた美浦村の光と風の丘公

園のロッジをまわって花火を手渡し、活動の趣旨を説明していたところ、あるお母さんが、「リクオさん知っていますよ！相馬の知り合いのレコード屋さんに教えてもらって…」

「モリタミュージックですか!？」
「えっ、知っているんですか？」
と、会話からいろいろつながっていきました。何でもその方は、相馬の方で情報誌を作っていたらしく、モリタミュージックの森田文彦さんのお知り合いとのことでした。きっと僕たちの想いが、届けるべき所に届いたのだと思います。

これを機に地元でライ部主催のライブでは、MY LIFE IS MY MESSAGE. やそうま・かえる新聞への募金活動、そうま・かえる新聞の配布をさせていただいています。そして募金していただいた方にささやかなお礼として、地元でライ部デザインの南相馬ファクトリー特製缶バッジを差し上げています。僕自身が福島県郡山市出身であるためか、他の部員よりも相馬への思い入れが強いかもかもしれません。不思議なことに、郡山に住んでいたころよりも、茨城に住んでいる今の方が、相馬を身近に感じます。

震災当時はライフラインも途絶え、明日も見えない状況でした。誰もが安心して暮らしていける、より良い未来をつくっていききたいと思っていたはずですが、けれど、今この文章を書いている時にも、ニュースでは安保法案、原発再稼働etc…何か違うのでは？と言わざるを得ない状況。そう考えるのは僕だけでしょうか。何かをする、しない、行動する、しない、etc…どれも正解で、答えはないのかもしれませんが、僕には、茨城で大きな地震や何かがあるとすぐにメールで大丈夫？と、安否確認の連絡をくれる相馬の友人がいます。彼の行動には「思いやり」が



▲ホームグラウンドの水戸のJazz Bar Bluemoodsで開いた大森洋平さん(左)のライブ。前日は相馬でも開かれた=7月26日

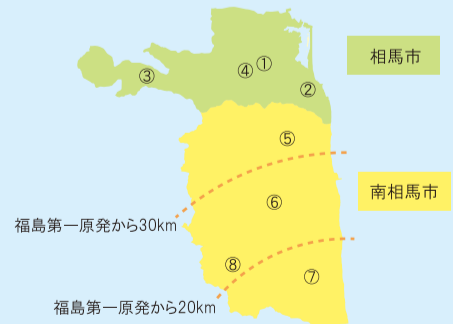
詰まっています。そんな思いやりをみんなが持っていれば、世の中もっと楽しくなるのではないのでしょうか。震災から約4年半が過ぎた今だからこそ、改めて大切な人や大事なことを考えてみることも必要だと思います。

最後に地元でライ部の夢を書きます。僕たちの夢の一つは水戸と相馬に音楽の架け橋をつくることです。その一つの形として、今年7月、大森洋平さんのライブを相馬と水戸で開きました。きっと相馬とつながっていなければ、できなかったライブです。とても素敵な夜となり、有意義な時間をつくるのが出来ました。相馬とのつながりに感謝し、その想いを更につなげていきたいです。これからも大好きなミュージシャンの音楽から、日々のエネルギーをオーディエンスの方々を受け取ってくれて、みんなが嫌なことを忘れて、明日も頑張ろうと思ったりしてくれて、エネルギーの循環が生まれる場を、水戸でしか味わえないライブをこれからもつくっていききたいです。思いやりを忘れずに。

そうま・かえる新聞 スタッフ募集

そうま・かえる新聞編集部では、現在、新聞記事の取材や執筆などに取り組むスタッフを募集しています。相馬市・南相馬市在住の方であれば、年齢や性別は問いません。活動は原則ボランティアです。希望者、興味のある方は、そうま・かえる新聞のメールアドレス(somakaeru@yahoo.co.jp)までご連絡ください。

相馬市・南相馬市放射線レベル測定値 (2015年8月31日 単位=マイクロシーベルト/毎時)



①相馬市総合福祉センター(はまなす館)	0.195 (△0.007)
②磯部小学校	0.067 (△0.005)
③玉野小学校	0.247 (0.007)
④馬陵公園長友グラウンド	0.137 (△0.007)
⑤鹿島区役所	0.167 (△0.004)
⑥南相馬市役所(原町区)	0.148 (△0.007)
⑦小高区役所(避難指示解除準備区域)	0.087 (△0.002)
⑧鉄山ダム(居住制限区域)	1.931 (△0.197)
東京(前橋区 東京都健康安全研究センター)	0.032 (-)

カッコ内の数値は前号の数値からの増減です。各地のモニタリングポストでの放射線レベル測定値は、原子力規制委員会のホームページで公開されています。

生きることの矛盾を肯定

南相馬ひばりFM 柳美里のふたりとひとり ゲスト・中川敬(ソウル・フラワー・ユニオン)

東日本大震災や東京電力福島第1原子力発電所事故による被害を受け、南相馬市が開設した臨時災害放送局「南相馬ひばりFM」では、芥川賞作家の柳美里さん「ひとり」が、南相馬市と関係する「ふたり」と対談する「柳美里のふたりとひとり」が毎週金曜、午後8時30分から放送されています。2012年3月16日に始まり、今年8月28日まで放送回数は168回を数え、出演者も300人を超えています。柳さんは今年4月、鎌倉市から南相馬市に移住し番組を続けています。今回は、昨年、南相馬市原町区の朝日座でリクオさんと共にライブを行ったロックバンド、ソウル・フラワー・ユニオンの中川敬さんが、7月のソロツアーの合間に南相馬市を訪れ、柳さんとの対談が実現。私の自宅でラジオを収録しました。その番組のダイジェストを紙面で紹介します。(柚原良洋/南相馬市)



▲柳美里のふたりとひとりで対談した柳さんと中川敬さん(左)

「ひとり」と「ひとり」

柳美里 いつもは、ゲストの方「ふたり」と私「ひとり」の「ふたりとひとり」なんですけど、今日は「ひとり」と「ひとり」ということで、ゲストはソウル・フラワー・ユニオン(SFU)の中川敬さんです。

中川敬 こんにちは、二人分やってみたく思います(笑)。

柳 中川さんとは、昨日、南相馬市の我が家にいらっしゃって初めてお会いして。

中川 南相馬市の友人の家に泊りに来たら、柳さんの家に行くって話が出来上がっていたという。柳さんとは、実はツイッターのDM(ダイレクトメッセージ-特定のひと、他人にツイートを見られずにやり取りができる機能)や手紙でやり取りはしていたけど会ったのは初

めてで。何度か会っていたような気はしたけど。柳 最初にライブを観たのは、2010年9月26日、神戸の六甲山のスキー場で開催されたガガガSP主催の野外イベント「長田大行進曲」の時です。

中川 柳さんがライブを観ていたことが何かに書かれていて、「小説家の柳さんが客席にいたんだ」って「でも、柳さんが踊る姿とか想像できひんなあ」って。

柳 それまでSFUを知らなかったんですよ。その日は、SFUの前の出演者がマキシマム ザホルモンで、その後がサンボマスター、ガガガSP。この3バンドのファンだったので客席の一番前の場所を死守していたんですよ。

中川 好きなバンドが出るから前にいたら、なんか、おっさんが出てきたと(笑)。

柳 その時が初SFUで、ライブを観てビックリしたんですね。生きることで矛盾だらけじゃないですか。「苦あれば楽あり」で片付かないようなグチャグチャな状態を丸ごと肯定するというのが素晴らしい。中川さんの曲って風が吹いている曲、風を唄っている曲が多くて、風がビューって吹き上げて歩き出す、歩き出したら踊りだすという。巷で流行っている歌謡曲はわかりやすい応援歌が多いですけど、そういう分かりやすい慰撫みたいなものがなくて、絶望している時ほど実は勇気が湧くんだってような歌詞で。

中川 自分では人がどう聴くかなんて考えて曲をかかないから、そう思ってもらえるのは嬉しいですね。自分が思っていることが曲に出ちゃっているだけで。みんな、単

やってないんですよ。言われたら歌おうかなって感じて。その時に色んな出会いがあって、5月から避難所まわりを始めて。

柳 ソウル・フラワー震災基金もやられてましたよね。

中川 ソウル・フラワー震災基金は、メンバーの伊丹英子が阪神・淡路大震災の段階で立ち上げた基金で、顔が見える範囲でしかやらない、しかも、一番最初はお年寄りや障がい者に関わったことにしか使わないと打ち出したんですよ。そう打ち出したことで、お金が残っていたんですよ。それで、ハイチやイランで地震があるたびに伊丹英子に「使おうや」って言うんだけど、彼女は完全主義者で、「最初に打ち出したのは神戸で、お年寄りや障がい者のためだから」って言いながら時間が過ぎていったんですよ。そこで東日本大震災が起きた時にもう一度「基金を使おうや」って連絡したら彼女も「これまでの事が起きたから使おうか」ってことになって。もう一回ちゃんと続けよう。

柳 私が見た時には炊き出しのお鍋とか色々な物を買われていましたよね。

中川 結構、彼女がビシッと管理をしていて、俺らも避難所をまわるのに結構持ち出しがあるから「交通費に使ったらあかんかな」って言ったら「絶対ダメ」って言います。その辺、完全に信頼してもらって大丈夫です。

被災地で歌う

柳 神戸(阪神・淡路大震災)の時に歌っていた時と、東北(東日本大震災)で歌っていた時とで歌のラインナップってかなり違うんですか。

中川 基本的に昼間に歌うから、避難所とか仮設住宅にいるのはお年寄りや子どもで、お年寄り向けのレパートリーになるんですよ。神戸の時は自分の好みもあって、民謡が明治・大正の頃の壮士演歌を中心にやっていたんですけど、さすがにあれから20年近くたって、お年寄りでも壮士演歌を知らない人が多いし、今のお年寄りはもはやフォーク世代、演歌世代になっているのでそういう曲を混ぜたりということはありません。

柳 私、中川さんの「がんばろう」が好きで、15年前に伴侶の東由多加を亡くしたんですけど、東由多加と暮らして、私が徹夜で仕事をする時に、東が机の周りをぐるぐる回って「がんばろう」を歌って。

中川 神戸でいろんな曲をやってみたくんですけど、受けるか受けないかを大事にしている、おじいちゃん、おばあちゃんに受ける曲、「受ける」ってどういうことかっていうと「共有できる」ってこと。

柳 一緒に歌ったりする方もいますか。

中川 「がんばろう」は人気高かったです。仮設住宅でのライブが終わった後に90歳を超えているだろうなって感じのおばあちゃんが近づいてきて、「兄ちゃん、歌うまいなあ。早くテレビ出られるように頑張りや」って(笑)。「お兄ちゃんの歌ってくれた曲に大好きな曲があって、青春時代に毎日、毎日歌ってた」って言われて。それで、おばあちゃんの姿から「アリアン」かな、とか「カチューシャの唄」かなって思ったら『「がんばろう」を毎日、労組で歌っていたのよ』って(笑)。それからずっと外せないレパートリーになったんですよ。

柳 東北で一番受けが良かった歌ってなんですか。

中川 「おいらの船は300トン」。中央発信のヒット曲ではないねんけど、遠洋漁業の港で有名な曲で。女の人に教えてもらってレパートリーに。最初は「ホンマかなあ」「おいらの船は300トン」なんて知らんけどなあ」って感じだったけど。で、用意していたら受けるんですよ。「この兄ちゃん通やなあ」って。後は「斎太郎節(さいたらぶし)」とか、東北の民謡ですね。

溝に響かせる

柳 今、中川さんが一人でツアーをまわっていますけど、それはどんなセットリストなんですか。

中川 SFUの曲、カバー曲、最近作った新曲とか。柳 在日と日本人の間、朝鮮半島の本国の人たちと日本人の間、朝鮮半島の人たちと在日の間、どうしても溝があるじゃないですか。沖縄でもヤマトウンチュとの間や、基地に賛成している人と反対している人とか。

中川 溝だらけ。柳 この福島も溝だらけで。補償とか色々な問題で溝だらけの時に中川さんの歌って響くと思うんですよ。溝を埋めようとして、溝を無かったように、見ないようにして歌うのではなく、溝の間を歩き来るといふか、跳ねるといふか。

中川 跳躍力はあるかもしれない。

柳 だから響くんじゃないかな。南相馬市でもライブをやってほしい。

中川 実は、弾き語りワンマンで全国を一人でまわるのを今年から始めたんですよ。芸歴30年にもなるし、新しいことにチャレンジしようって。体はきついけど、意外と楽しいんですよ。去年、朝日座でリクオとライブをやりましたが、大型新人フォーク歌手の中川敬、是非、南相馬ワンマンデビューを企画してください(笑)。

番組のURLはhttp://hibarifm.wix.com/870mhz

にホモサピエンスでしよって(笑)。柳 それからは何回もライブに行って、CDも聴いて。中川 ソウル・フラワー・モノノケ・サミットというSFUの別動隊があるんですね。俺が沖縄の三線を弾いて、チンドン太鼓とかが入る、民謡とか戦前の壮士演歌を演奏するバンドで。吉祥寺のスターバインズ・カフェでソウル・フラワー・モノノケ・サミットのライブがあった時に、なんか俺の前に柳美里さんに似ている人がいるなどは思ったけど、なんか伏目がちやねん(笑)。後からツイッターで「今日、ソウル・フラワーを観た」ってあって会場にいたことが判明して。

民謡の魅力に

柳 モノノケ・サミットでは朝鮮民謡の「アリアン」や沖縄の曲をやったり、楽器もチャンゴ(朝鮮太鼓)とか沖縄の三線とか使ってます。沖縄の基地問題、朝鮮はまだ分断されたままだし、永遠と解決を先延ばしにして苦難の中を生きざるを得ない、そういう側に共感しながら、それでも矛盾を抱えて生きるんだというようなメッセージを感じます。

中川 90年代にワールドミュージック的に音楽を聴くという聴き方が出てきて、外資系のレコード屋が各地にできてきたことでいつでも世界中の、例えば地球の裏側の音楽のCDでも安く買えるようになったでしょ。あのころからあらゆるものを聴き始めたんですよ。沖縄民謡もその文脈ではまったんです。音楽としてカッコいいなど。嘉手刈林昌さんや登川誠仁さんだったり、所謂巨匠と呼ばれる人たちの民謡。ただ、時代というものもあったと思うけど、萱野茂さんがアイヌ民族として初めて国会議員になろうと社会党から出馬したり、パプルのころということもあって、今でいう左派的な事象が取り上げられやすかった時代で、情報として一気にやってきましたよ。俺は20代半ばだったから、やってみたらどんなものも咀嚼したくて。今は文化と歴史性も踏まえた上でということはあるけど、初めは沖縄民謡も音楽の素晴らしさで入ったんですよ。それと、ふと気が付いたら子どものころから周りに在日の知り合いも多かった。相当近いところにそういう社会があって、そう言えば朝鮮民謡は聴いてなかったなあと思って聴いてみたらカッコよくて。ただ自分たちは所謂ロックをやっている、それを安易に取り上げるといふ感じは自分の中にはなくて。しかも今の若い人たちは違う戦後の感覚もあって、マイノリティ選別的にそういったものをネタで使うというの嫌だったし。けど、俺はヤマトウンチュや、日本人やし、っていう中で沖縄勢や在日コリアンのバンドとセッションしたりする中で、彼らが「気にせずやったらええやん」って言うってくれる

わけ。で、俺も三線を弾き始めたり。そんなことをやっているうちに阪神・淡路大震災が起こるんですよ。で、うちのメンバーが、震災の一週間後くらいに「せっかく私ら民謡とかに興味あんねんからアコースティック楽器持って避難所へ回らんか」、「歌いに行こうや」って言い出して。「歌い」って、「ボーカル、俺やん」(笑)。28歳やったから、はじめは大変なイメージがあっただろ。大変な思いをした人たちが避難所にいる、その前で単に音楽をする訳じゃなくて、曲と曲の間にしゃべりもある訳で、そこに立てるのって不安もあるけど、1995年2月10日、震災から3週間後くらいに初めて演奏しに行ったら、受けたんですよ。毒のあるギャグを言ったりしても受けて。「俺、やれるかも」って思って。そこからは2日おきに避難所に行って、知らないうちに民謡とか歌う人になっちゃったんですよ、ドタバタの中で(笑)。

東日本大震災で

柳 中川さんとはツイッターのDMでは何度もやり取りをしていて、私が覚えているのは2011年4月21日、警戒区域になる前の地域に私が入った時に、福島第1原子力発電所の正門前で中川さんにDMしたんです。

中川 覚えてる。何してんやろこの人って(笑)。

柳 放射線量の話とか。「80(μsv/h)ちょっとかな」、「ええっ!」みたいな。そんなやり取りをしていて。中川さんが阪神・淡路大震災の時に神戸で活動していたのを知っていたので「中川さんはこちらにいらっしやらないんですか?」って送ったら「今すぐではないけど、いつか歌が必要になったら」って。

中川 2011年4月20日ごろであれば、東北に行こうとしていたころですね。

柳 最初に行かれたのはどこですか。

中川 4月24日に代々木公園でイベントがあって、それに出ることになっていたので、自分の車で大阪から東京まで行って、物資を載せてそのまま東北に行こうと。だから4月25日に初めて宮城県石巻市に入りました。なんでも石巻市だったかという、友人たちが結構石巻市をベースにボランティアをやっている。2日がかりで、石巻、女川、また石巻に戻って、仙台で友人に会ったり、白石に行ったり、福島で元ボ・ガンボスの岡地君に会ったりして大阪に戻って。その時は、いくらあっても困らないものってオーダーがあって、石巻の保育所に画用紙とかクレヨンとか車に積めるだけ積んで持って行って。ただね、関西人だから甘くみてたんですよ。東北、広すぎて「いつ、福島県おわんねん」って(笑)。東北のどこかを体感する旅になったというか。その時も三線とアコースティックギターは載せていたけど、押し付けはしたくないから音楽は

ひろがる つながる

そうま・かえる 新聞を配布してくださっている全国各地のお店を紹介します

《黒猫》

熊本市に一人で営む小さな喫茶店です。熊本には今回の東京電力福島第1原発事故で避難して来た方も多くそうですが、北に佐賀・玄海原発、南に鹿児島・川内原発、これも日本中の他のまち同様、原発の近所です。福島は誰にも他人事ではありません。音楽が結んでくれた友人の地でもあります。震災の事故前から「絶対安全」。だから事故後のいまも「絶対安全」。こういった私たちと私たちの政府のあり方を変えなければ。希望は小さいかもしれませんが、諦め切ることはできません。

黒猫 澤田尚

SHOP INFORMATION

〒860-0854 熊本県熊本市中央区東子飼町1-9
☎096-221-4173

編集部からみなさんのサポートに感謝を

全国のみなさんから、たくさんの愛のあるサポートをいただいて「そうま・かえる新聞」は発行されています。7/1~8/31までのサポートご支援(右記口座への寄付ご入金)は、125,369円です。ご支援、本当にありがとうございます。

次号は2015年12月発行予定です。

「そうま・かえる新聞」はみなさんに寄付のお願いをしています。額の大小は問いません。全額を「そうま・かえる新聞」発行のための経費として使用させていただきます。寄付の際には可能であればメールなどでご連絡先(お名前、ご住所など)をお知らせいただけると幸いです。

●郵便局からお振り込みの場合
口座/ゆうちょ銀行 記号/18290
番号/30483531

●他銀行からお振り込みの場合
口座/ゆうちょ銀行 店名/八二八(読み ハチニハチ)
店番/828 預金種目/普通口座 口座番号/3048353
口座名/そうまかえる新聞編集部

そうまかえる新聞

【そうま・かえる新聞】
2015年9月 第20号

発行元 そうま・かえる新聞編集部
http://somakaeru.com

連絡先 そうま・かえる新聞編集部
e-mail somakaeru@yahoo.co.jp

所在地 〒976-0042 福島県相馬市中村1丁目13-3
モリタミュージック内

編集 相馬市・南相馬市ほか有志

協力 かえる新聞(いわきの子供を守るネットワーク)

★記事の転載や転用をご希望の方はそうま・かえる新聞編集部までお問い合わせください。